

■ 素案に対する議員からの意見について

＜実施期間：2月13日（木）～3月13日（金）の30日間 意見提出：1名14件＞

No.	箇所	指摘事項
1	P5 1-2 年齢別人口	年齢別人口を3区分としているが、老年人口の増加が顕著と分析するならば、この老年人口を65～74歳と75歳以上に区分して将来推計を表示した方がより分かりやすいのではないかと。
2	P33 4-3 人口の将来展望（1）	未婚率の上昇は様々な複合的要因が絡んでいるが、ライフデザインセミナーや広域的な結婚支援業務などで、確実な成果を期待できるのだろうか。当市の首都圏から進出している企業に働きかけ、お互いの若者の交流を図ったりして、複合的な視点で考えてみてはどうか。
3	P43 3-1 しごと	民間会社等は常に新事業にチャレンジして会社存続を図っている。財政難とはいえ当市新年度の新規事業が1件だけというのはいかなるものか、年度途中で補正で発出してくる新規事業が予定されているのか。
4	P43 3-1 しごと	洋上風力発電事業については、この3年間にそれ相当の人材と資金を投入して推進し、見込みがなかったら即座に手を引く覚悟でやるべきでは。
5	P44 (3) ① 農業振興	「新たな特産品の開発とは例えばどんなものか」や「チャレンジショップでは何をやるのか」といったもっと具体的な推進事業を示してはどうか。
6	P48 (3) ① 観光・交流	ここ数年、辺地債を利用して樽ヶ橋エリアに資金を投入しているが、人口2万人台の財政運営上、この道の駅に1点集中し将来展望を図っていくことが肝要なのか、奥胎内エリアの維持管理は今後難しいのではないかと、検討して結論を導いては。
7	P49 (3) ② 移住定住促進	関係人口等の創出を図ることについて、この5年間、移住定住のハードルが高かったため、そこにシフトしていくのかとを感じるが、関係人口は地域課題の解決に資する根拠がよく分からないので、当市への人の流れの強化につながるのか疑問である。
8	P49 (3) ② 移住定住促進	移住定住のメニューは他市と変わりなく、当市独自のメニューが欲しい。例えば、住民自治組織が集まって、その地域別の施策を提案する地域づくりが必要であり、しかも、その組織参加者を、常に女性や障がい者、青少年が半数を超えるものに変えていくべきである。
9	P51 (3) ① 子育て支援	子育てサークル活動支援等で子育て世帯の孤立化を防止するとあるが、子育ての悩みや他市の情報等を共有するプラットフォームとなるサイトが開設されていたら載せるべきである。

No.	箇所	指摘事項
10	P51 (3)① 子育て支援	当市の保育行政はその質、量とも他市に比べ充実している方だと思うが、今後民営化を進めていく上で、保育士の働き方改善を図ることが必要であり、例えば当市の年金生活者から応援してもらうなどして労働環境の整備が図られるのだろうか。
11	P56 (2) 講ずべき施策に関する基本的方向	地域づくりは、女性の参加が重要である。旧黒川村の集落センターは、トイレの入口が1つでしかも中は、男女兼用であり早急の改善を望む。こういった環境整備が女性を取り込む第1歩となる。
12	P57 (3)② 生活基盤	超高齢社会の対応について、例えば70歳以上で実際に車を運転している人の実態把握（人数、行動範囲や頻度、時間数等）はされているのか、免許返納率や交通弱者の地域別の見える化が欲しい。
13	P57 (3)② 生活基盤	のれんす号やスクールバスの需要増が市財政に直結すると思うが、例えば、民間のマイクロバス所有者等に応援してもらうことは考えられないか。
14	P61 4-1 推進体制	市民協働を強くうたう当市に自治体における憲法ともいえる自治基本（まちづくり）条例がなく、このため、住民自治の確立が遅れていると一部市民から指摘されているが、必ずしも条例等で定めなくとも、地域協議会等の活性化・権限強化等を計っていくことは可能だと思うが如何か。